

認知症を理解する

認知症の症状

これまでで得られた記憶、認識、判断、学習などの知的機能が低下し、自分や周囲の状況を把握したり、判断することが出来なくなり、自立した生活をするのが困難になっている状態をいいます。つまり、これまで周囲の手を借りずに自立した生活が出来ていた人が、ひどい物忘れのため、適切な判断力、推理力などが低下して、周囲に迷惑を及ぼす言動が出てきて、見守りや援助などの手助けが必要になった状態といえます。

健康な高齢者の加齢に伴うもの忘れと認知症のもの忘れ

ふつうのもの忘れ	認知症のもの忘れ
体験の一部を忘れる	全体を忘れる
記憶障害のみがみられる	記憶障害に加えて判断の障害や実行機能障害がある
もの忘れを自覚している	もの忘れの自覚に乏しい
探し物も努力して見つけようとする	探し物も誰かが盗ったとことがある
見当識障害は見られない	見当識障害がみられる
作話はみられない	しばしば作話がみられる
日常生活に支障はない	日常生活に支障をきたす
きわめて徐々にしか進行しない	進行性である

東京都高齢者施策推進室「痴呆が疑われたときに・・・かかりつけ医のための痴呆の手引き」1999より引用・改変



うつ状態、認知症の臨床的特徴

	うつ状態	認知症
基本症状	抗うつ症状、心気的状況	記憶・認知障害
感情	抗うつ気分持続	表面的、浅薄、動揺
記憶・認知障害	訴えるほどの低下はない	あり
言語理解・会話	困難でない	困難である
応答	遅延、真摯に考慮して「わからない」と言う	言い訳、作話、怒り、ニアミス返答、考えようとしていない
症状の持続	数週間～数カ月	永続的
うつ状態の既往	多い	少ない
自殺傾向	しばしば	少ない

似たような症状の病気

認知症ではなくても同じような状態を示すこともあります。よく間違えられやすいのが「せん妄」、「うつ状態」ですが、これらは適切な治療で改善が見られます。

病気を持っておられる方は、70歳代では36%ですが、85歳以上では27%の方が認知症にかかっています。認知症は脳や身体の病気により、脳が障害を受けて発症します。ほとんどは「アルツハイマー型認知症」と「脳血管性認知症」です。

認知症の方に対して出来る事

体が覚えていないほどこれまでずっと続けていたり、楽しんでやっていたことができることは、本人にとってもうれしく、自信に繋がります。

また、不安や嫌な気持ち、うれしさ、楽しさといった感情はあまり障害を受けず、いつまでも持ち続けます。

家族の中で、楽しさ、うれしさといった感情をいつまでも与え続けてあげられ、支えあえる関係を築き上げる必要があります。(認知症疾患医療センター 吉川敦精神保健福祉士)

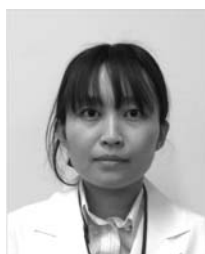
看護師・薬剤師 募集中

西伯病院では、一緒に働ける方を募集しています。勤務条件等は、ホームページを御覧になるか、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL (0859) 66-2211 (代表)
ホームページ
http://www.saihaku-hospital.com/



新職員紹介♪



歯科医師
こざさ みほ
小笹 美保

今年度から西伯病院の歯科に勤務することとなりました。出身は米子市です。これから地域住民の方々に対して分かりやすい丁寧な医療を心がけたいと思っています。宜しくお願い致します。

